

図1.[講演概要図] 文明法則史学からみた新日本秩序建設期限

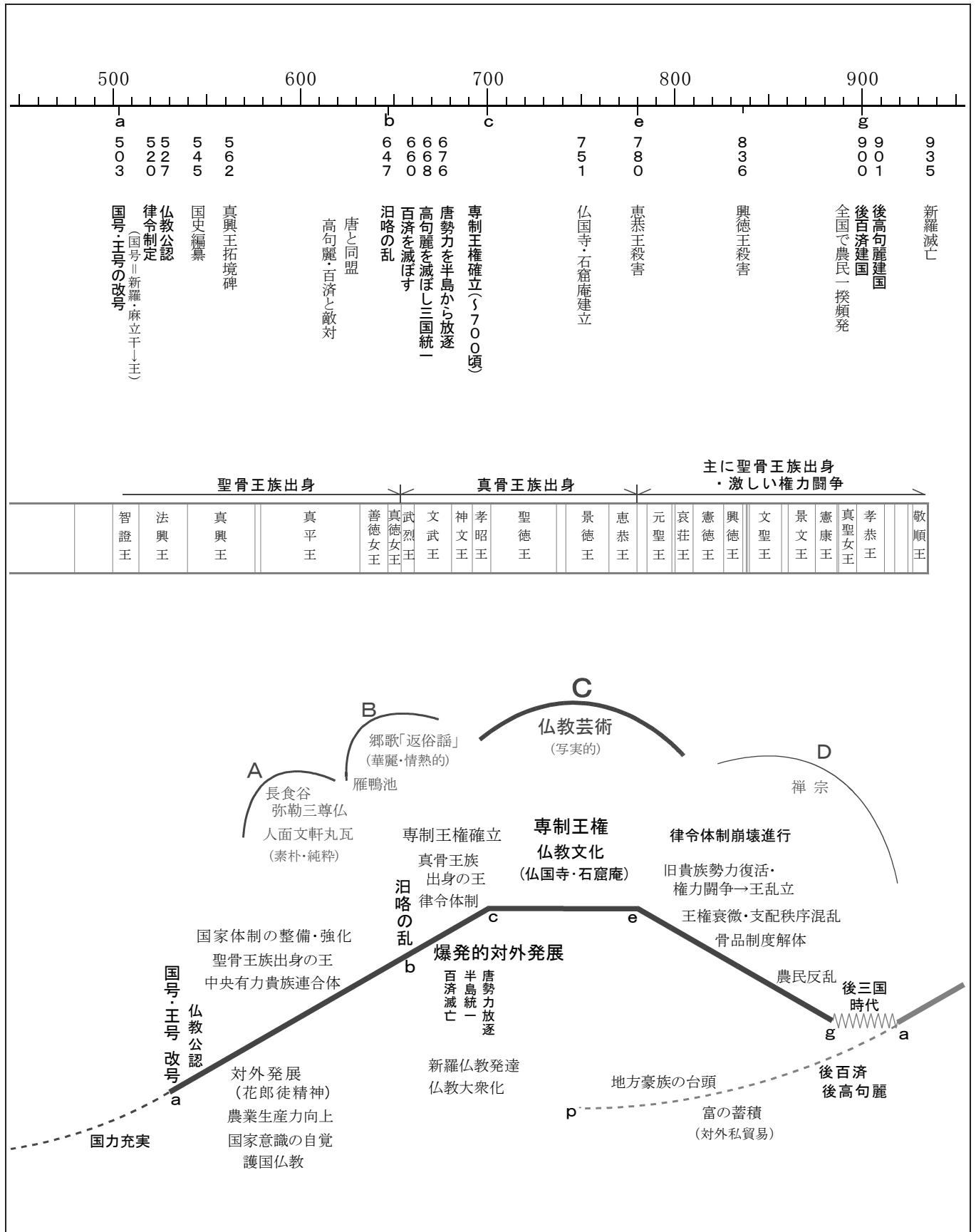


図2. 新羅秩序(概要図)

Blood is thicker than water.

英文→韓文

Blood^피 is^{있다} thicker^{한(하다)} than^{보다} water^물

X

Blood^피 water than thicker^한 is

英文→和文

Blood^水 is^{水の比} thicker^{こい} than^{より} water^水

X

Blood^水 water than thicker^{こい} is

學而時習之 不亦說乎

漢文→韓文

學^{배우다} 而^고 時^때 習^{리다} 之^것 不^{아니} 亦^{아니} 說^{기쁘다} 乎^가

X

學^{배우다} 時^때 之^것 習^{리다} 亦^{아니} 說^{기쁘다} 乎^가

漢文→和文

學^{まなぶ} 而^{して} 時^{とき} 習^{なむ} 之^{こと} 不^{あらず} 亦^{また} 說^{よろこぶ} 乎^や

O

學^{まなぶ} 時^{とき} 之^{こと} 習^{なむ} 亦^{また} 說^{よろこぶ} 乎^や

図3. 漢文読み下しの獨創性

漢文の読み下し法は古代日本人による獨創的産物であった。参考までに、ハングルの創造は14世紀である。

表1. 外来文化受容法の比較(新羅vs日本)

	新 羅	日 本
仏教の受容 (外来の信仰)	仏教王国 ほぼ原形通りの形で 急速に受容	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">神仏習合</div> 固有の信仰(神道)と 融 合させながら じっくり受容
漢語の受容 (外来の言語)	近現代における 英語の受容と同様 漢語 = 外国語	漢文読み下し法の発明 (漢字の訓読み等) 仮名文字の発明 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">漢語 = 母国語</div>

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

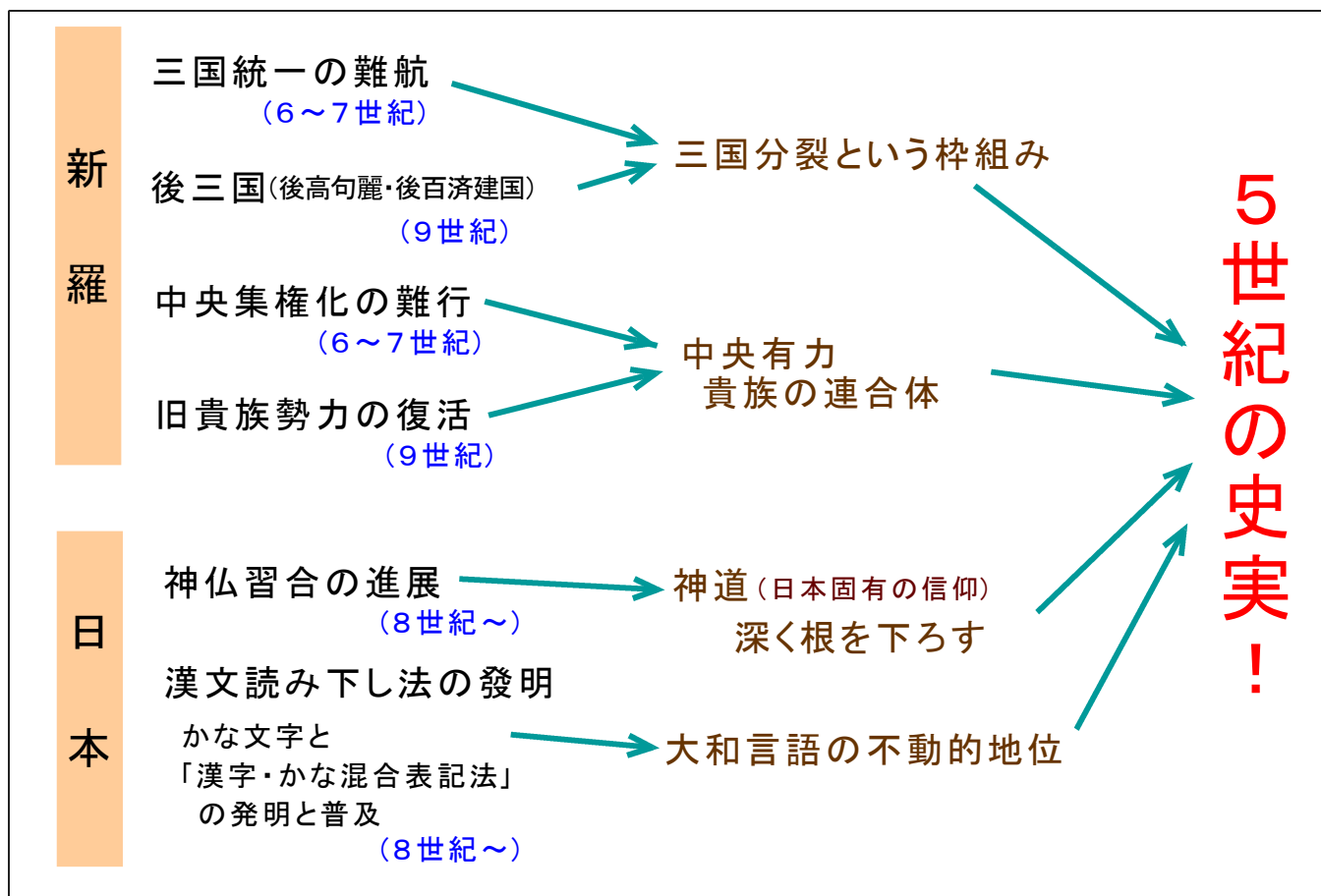


図4. 「5世紀はアジアの枠組みが固まった特殊な時代だった」という仮説の誕生

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

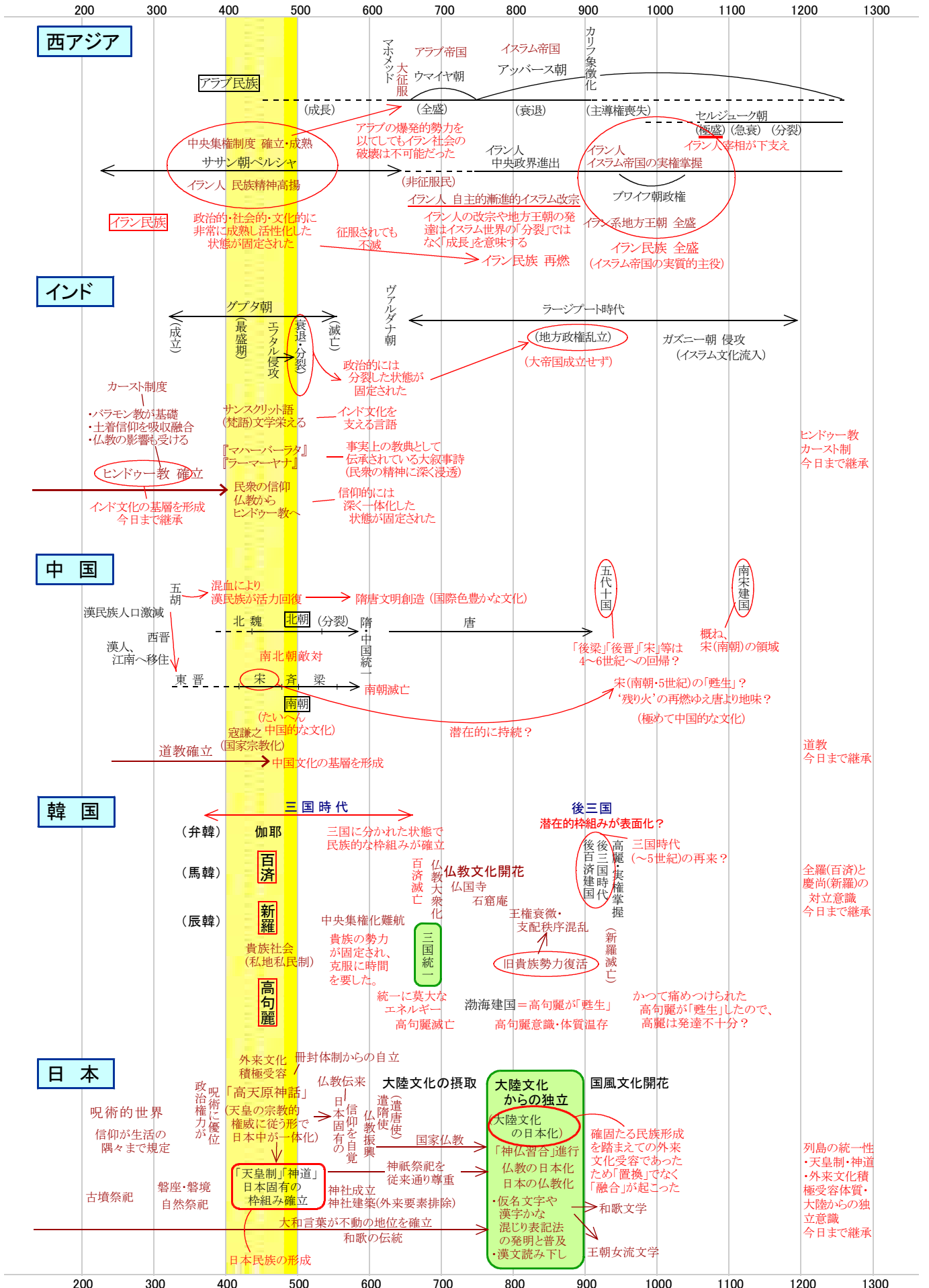


図5. アジア史における5世紀の特異性

表2. アジアにおける歴史展開の共時性(7~12世紀)

地域	西アジア	中国	韓国	日本
事象 固有要素 (5世紀に固定された要素)	イラン民族の一体性 (ササン朝秩序(?)全盛) 中央集権制度	華北と華南の分立状態 豪族による土地私有 北朝系 国際色豊か (ニュー漢民族) 社会秩序未成熟 南朝系 伝統色濃厚 (トリアイソナル漢民族) 社会秩序不在	高句麗・百濟・新羅の鼎立状態 (社会秩序の成立を阻む緊迫状態) 新羅系 部連連合社会 王権弱小 土地私有 高句麗系	日本民族の一体性 (古墳秩序全盛) 政治的・社会的・信仰的統一 天皇制(権威最高潮), 神道, 大和言葉の権威, 豪族による土地私有
異質要素の隆盛 (7世紀~8世紀中葉)	アラブ民族・アラブ帝国 (ウマイヤ朝=661~750年)	中央集権制度 (律令制等)順調 (隋:581年 ~盛唐:755年) (滅亡)	三国統一(668年) 専制王権や 律令制順調 (7世紀中葉 ~8世紀中葉) (滅亡)	大陸文化の摂取順調 律令制順調(~8世紀中葉) 大仏開眼(752年)
異質要素のかけり (8世紀中葉)	ウマイヤ朝滅亡 (750年)	安史の乱 (755~763年)	職田制廃止 (757年)	奈良の政界混乱 (757~770年)
異質要素の乖離と 固有要素の復活化 (9世紀)	アッバース朝の衰退 (=アラブ民族の衰退), イラン民族とイスラムの融合 イスラム帝国秩序興隆加速	律令制の瓦解と それに伴う 社会秩序衰退	律令制の瓦解と それに伴う 社会秩序衰退	律令制の衰退, 土地私有化進行, 大陸文化の吸収融合, 奈良・平安秩序興隆加速
異質要素乖離および 固有要素復活の完了 (10世紀初頭頃)	カリフ形骸化・象徴化 (908年)→高原期へ イラン人官僚, アッバース朝の実権を掌握	隋唐秩序崩壊 (907年) 五代十国(907~960年) 5世紀前後の名をもつ王朝が続出	新羅秩序崩壊 (900年) 後三国時代 (900~935年) 後百濟 建国 (滅亡) 後高句麗 建国 高麗建国	延喜格完成(907年), 負名体制の確立 (国司の任国一任制により 納税と引替に旧地方豪族の 土地支配を実質的に容認)
固有要素の隆盛 および 5世紀への回帰現象 (10~12世紀)	イラン民族活躍(10~11世紀) プアイフ朝中央政権掌握, イラン系地方王朝全盛 (12世紀以後, トルコ民族に埋没?)	後継秩序なし (北方民族に埋没?) 中国的な文化, 民族精神高揚 (おもに11世紀) 南宋と斉(南朝) の領域酷似 (12世紀)	後継秩序なし (高麗秩序に埋没?) 高麗的な文化, 民族精神高揚 (おもに11世紀)	国風文化の開花 (10~11世紀) 荘園寄進の激増(12世紀) (有力者への奉仕と引替に 土地私有の正当性を獲得す る在り方は古墳時代と類似)

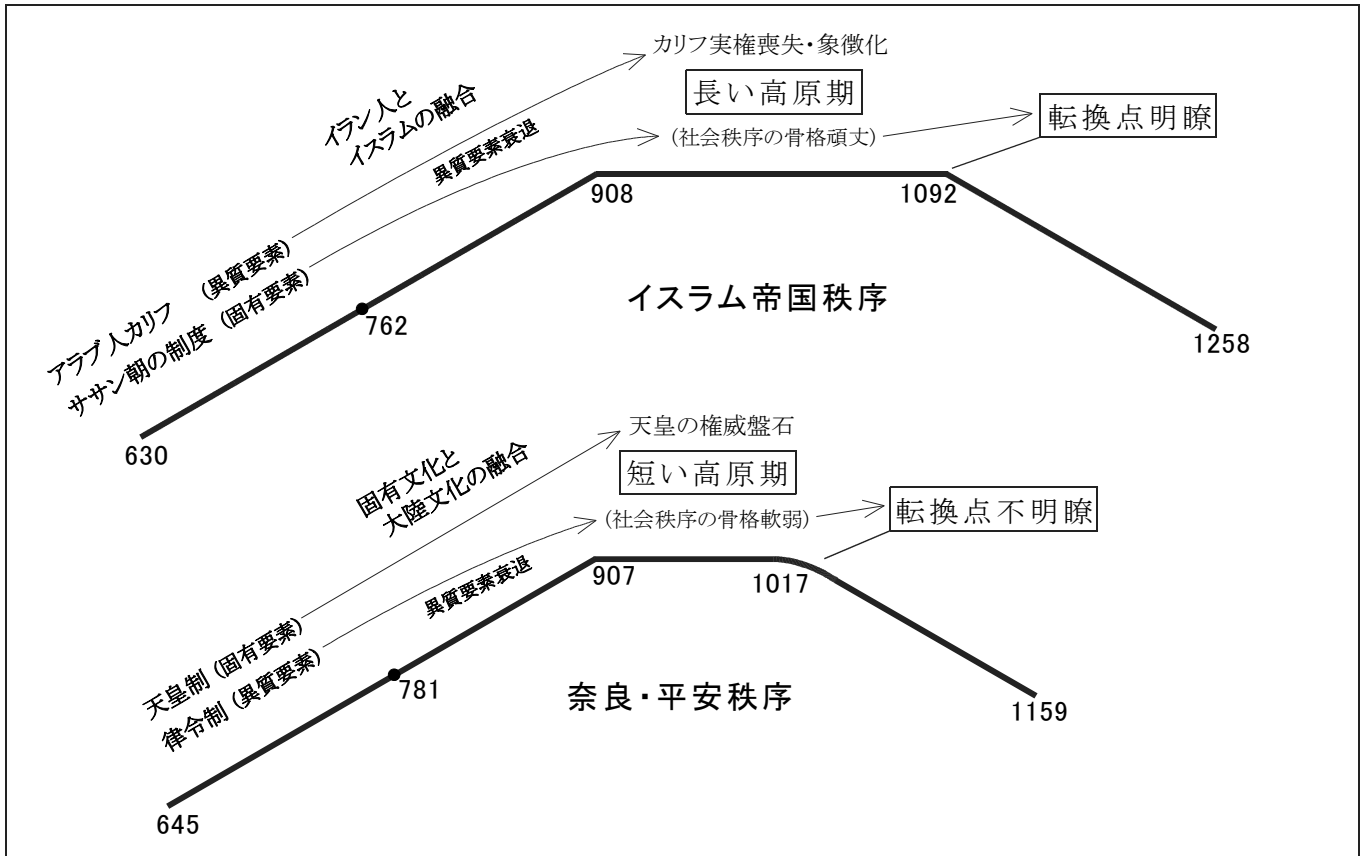


図6. 奈良・平安秩序とイスラム帝国秩序の相違点

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

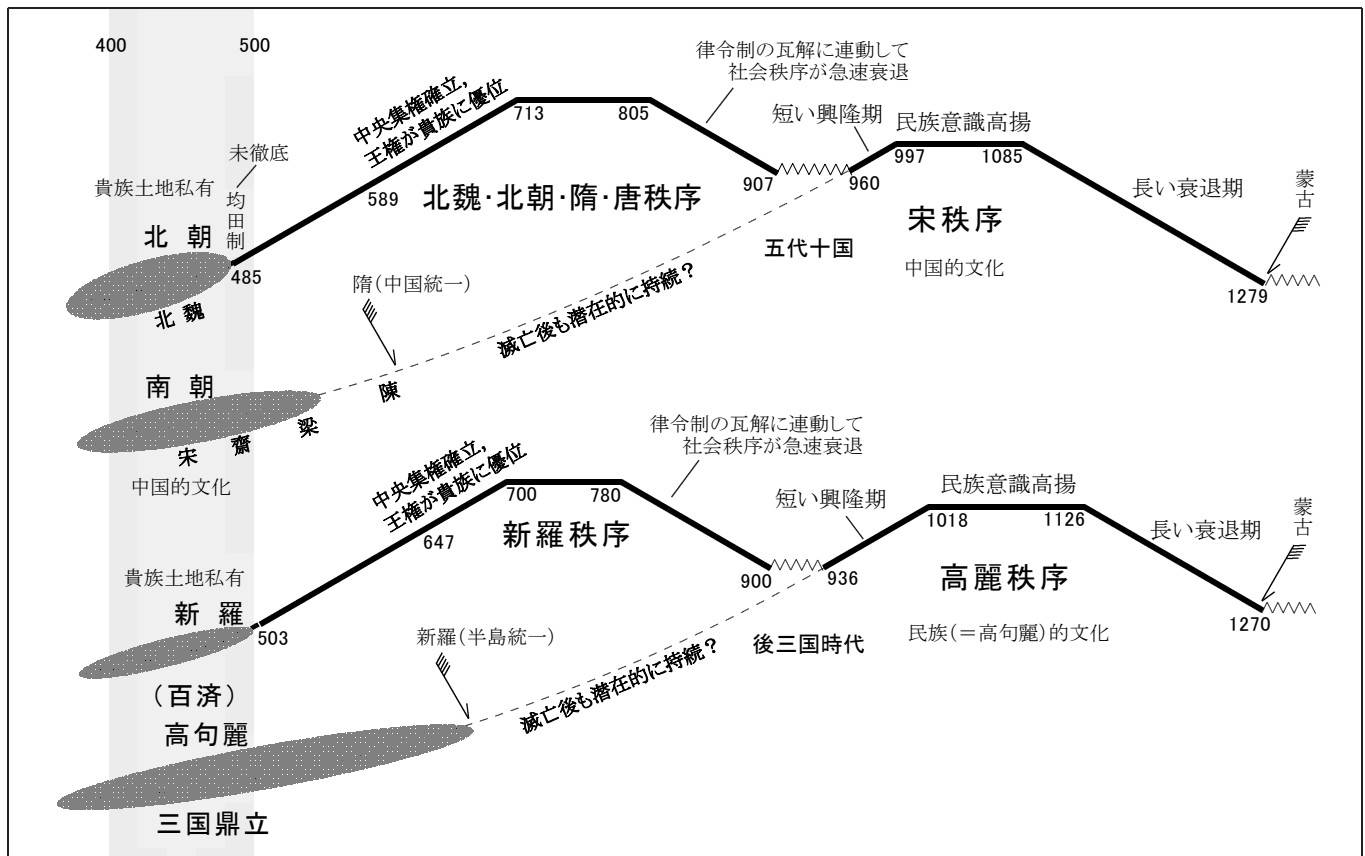


図7. 韓国史と中国史の共通性

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

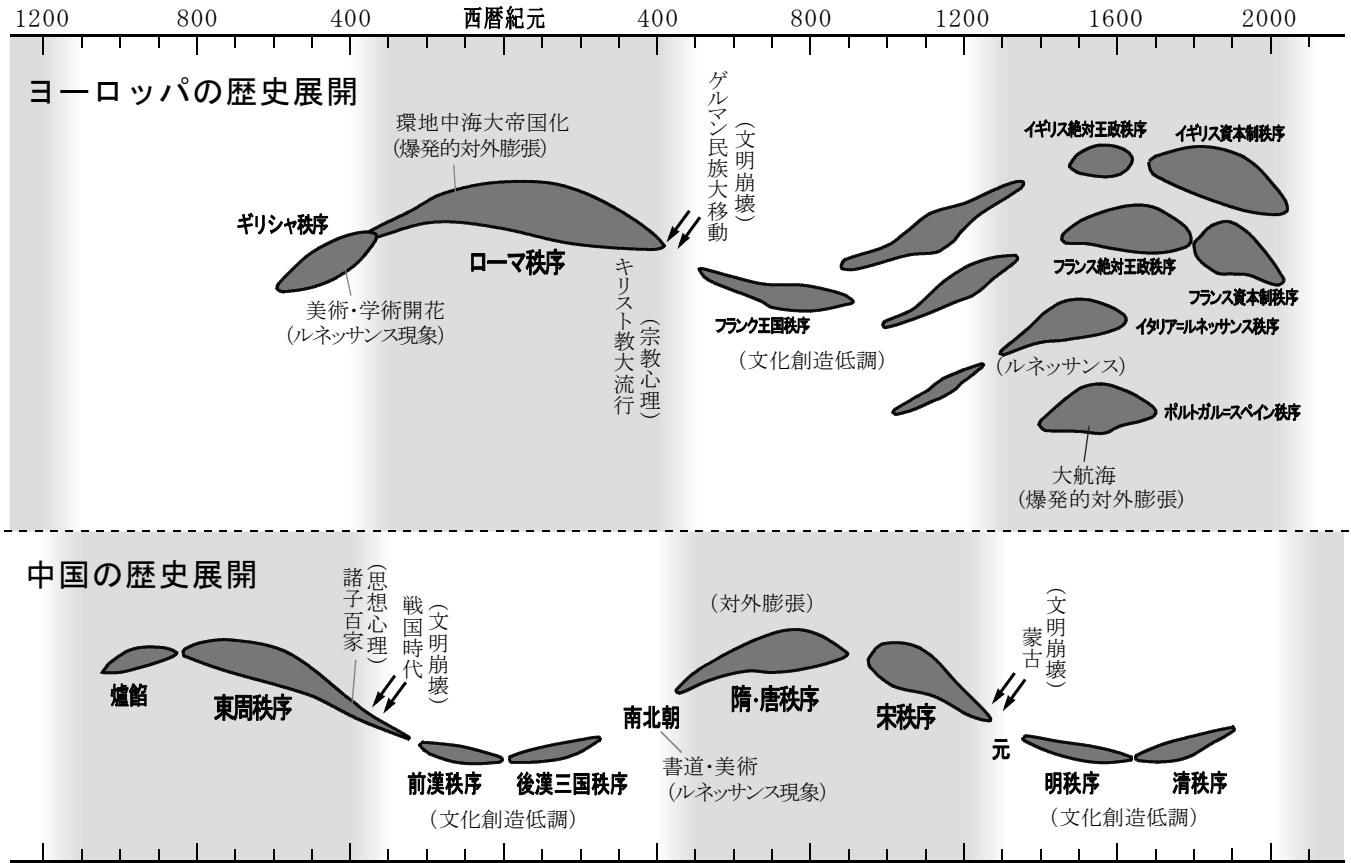


図8. 中国史とヨーロッパ史の関係

林英臣著『文明法則史学入門』そふと研究所, 同『中国文明興亡史』博進堂, および, 服部匡成・中村仁音の研究成果を基本に作図した。

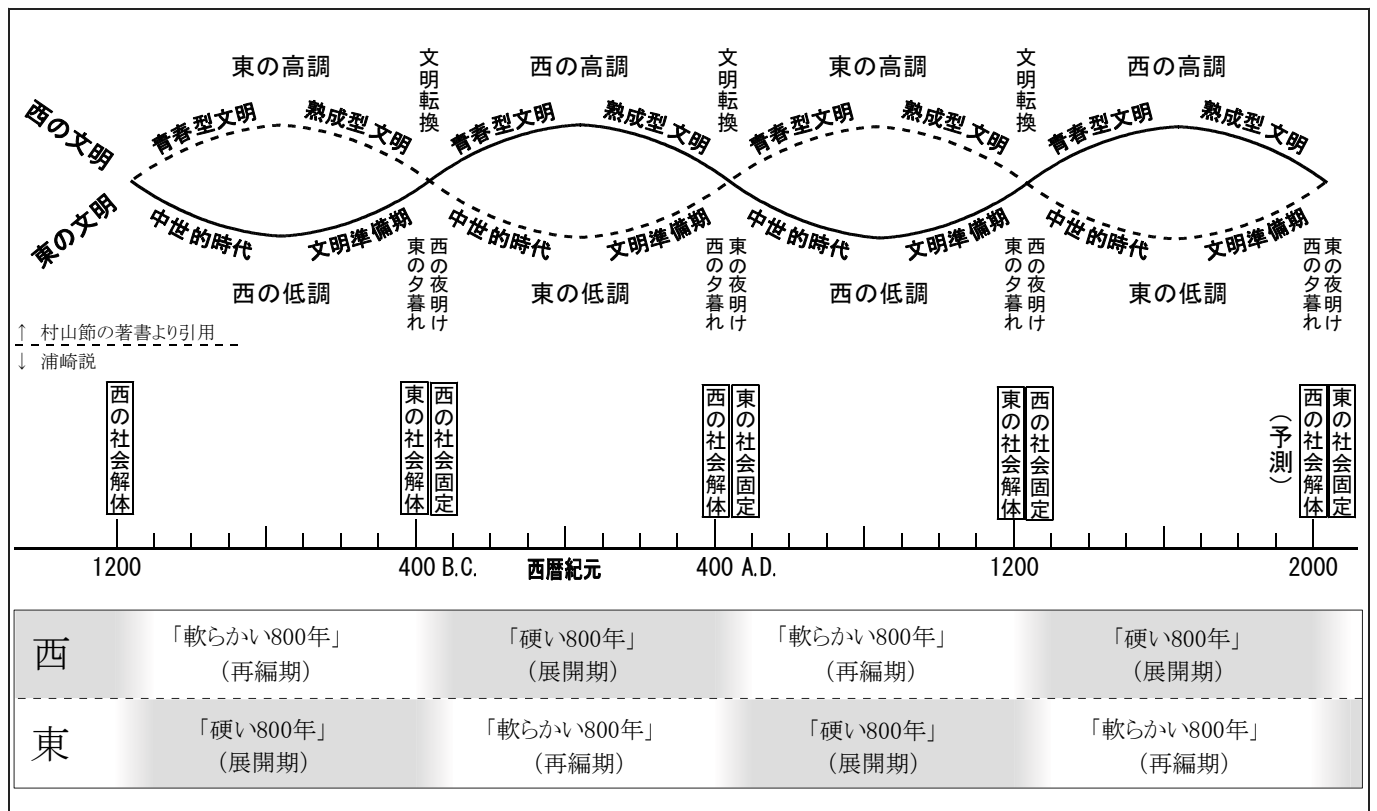


図9. 文明サイクルの「二極対立・周期交代」構造

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. ただし「二重らせん構造」の図は 村山節著『歴史の法則と武装中立』新人物往来社 を基本に作図した。

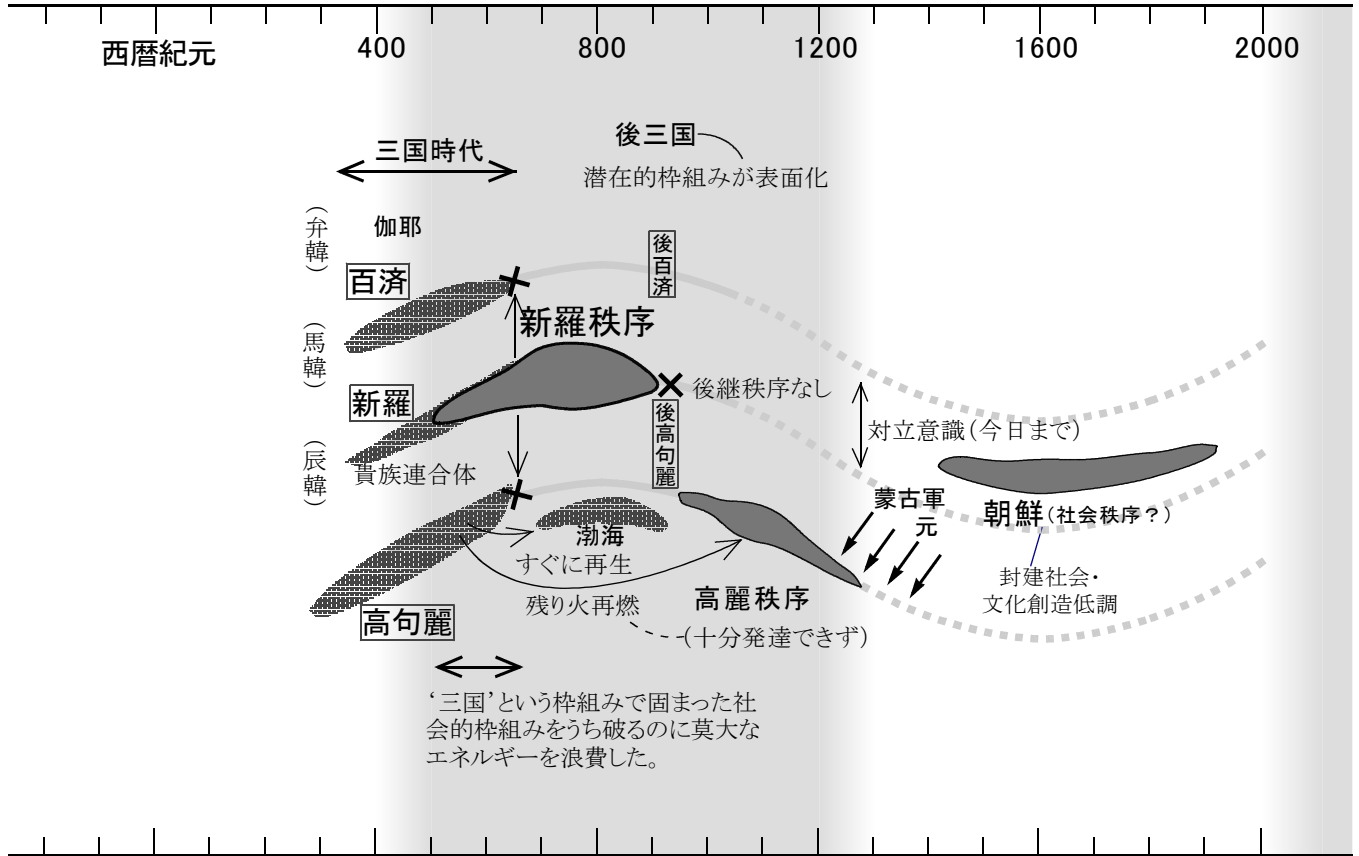


図10. 文明サイクルと韓国における歴史展開

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

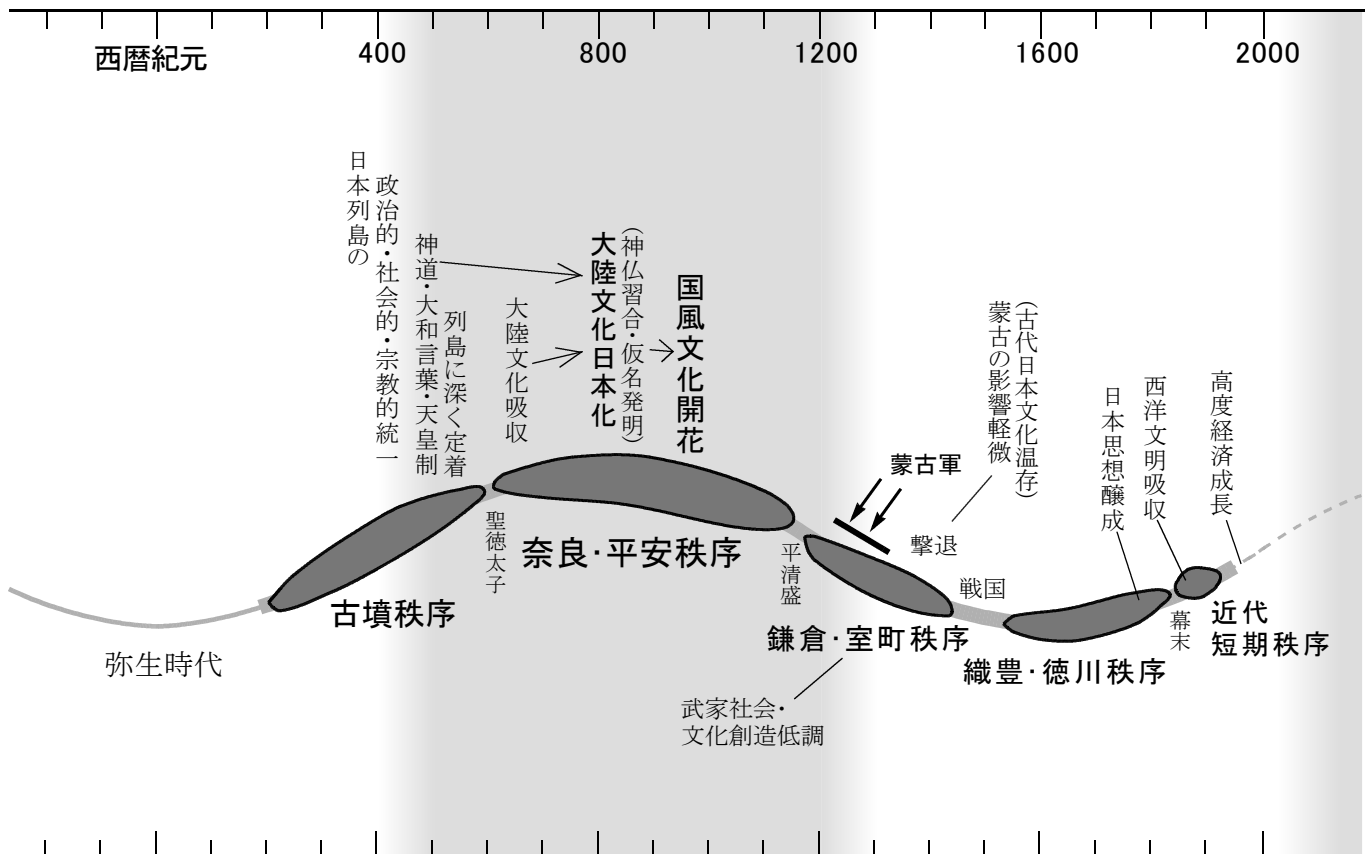


図11. 文明サイクルと日本における歴史展開

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

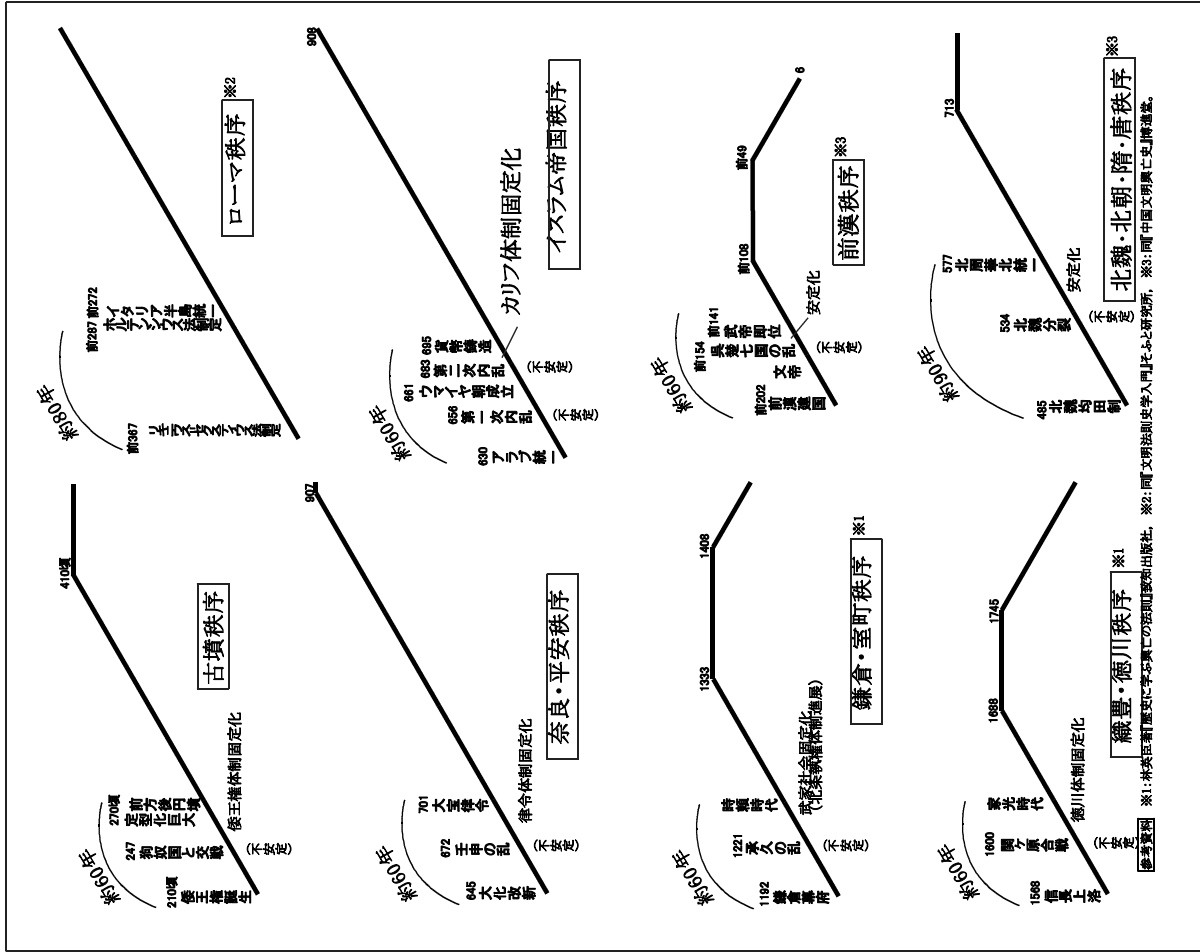


図13. 新秩序誕生から 社会の安定化までに要する時間

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

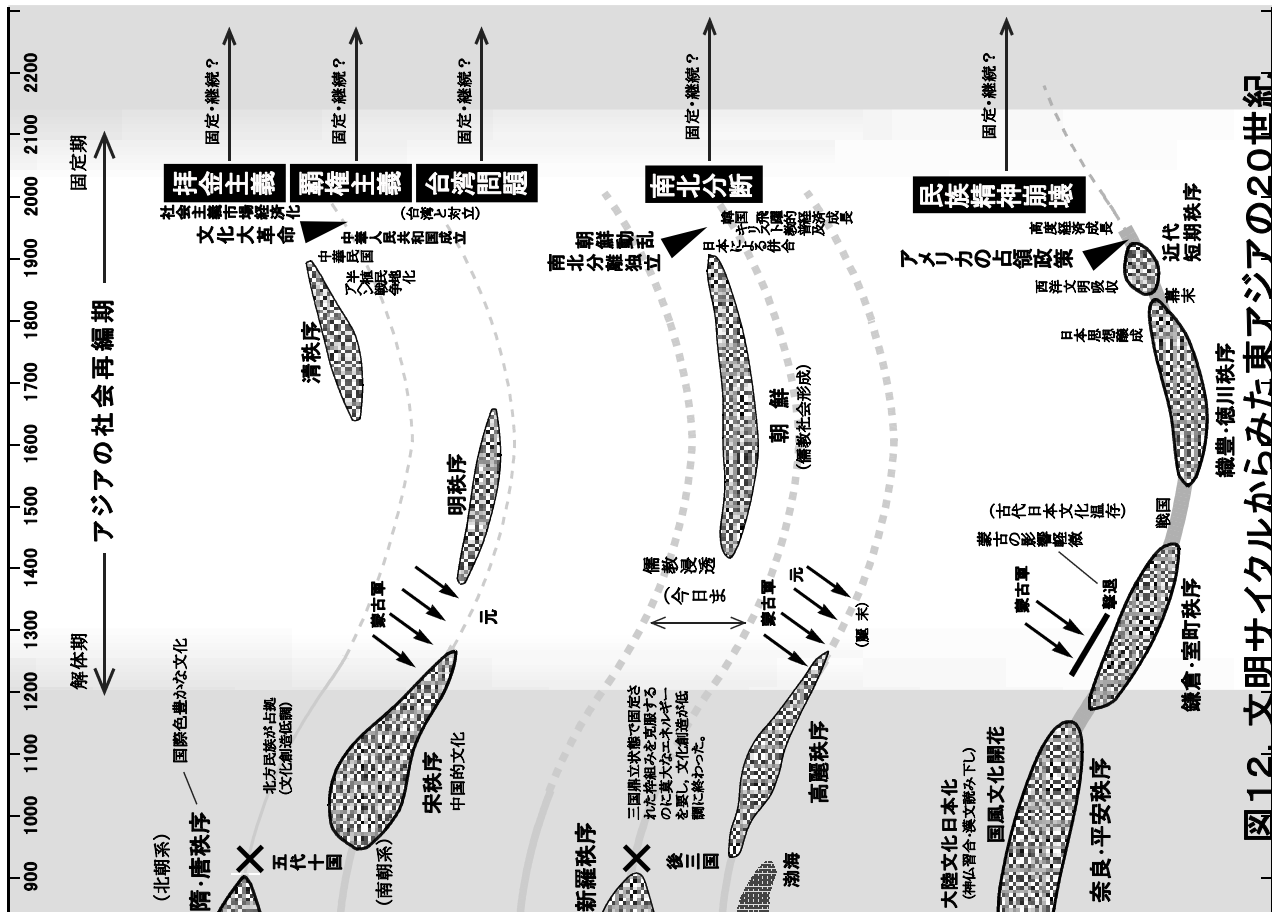


図12. 文明サイクルからみた東アジアの20世紀

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

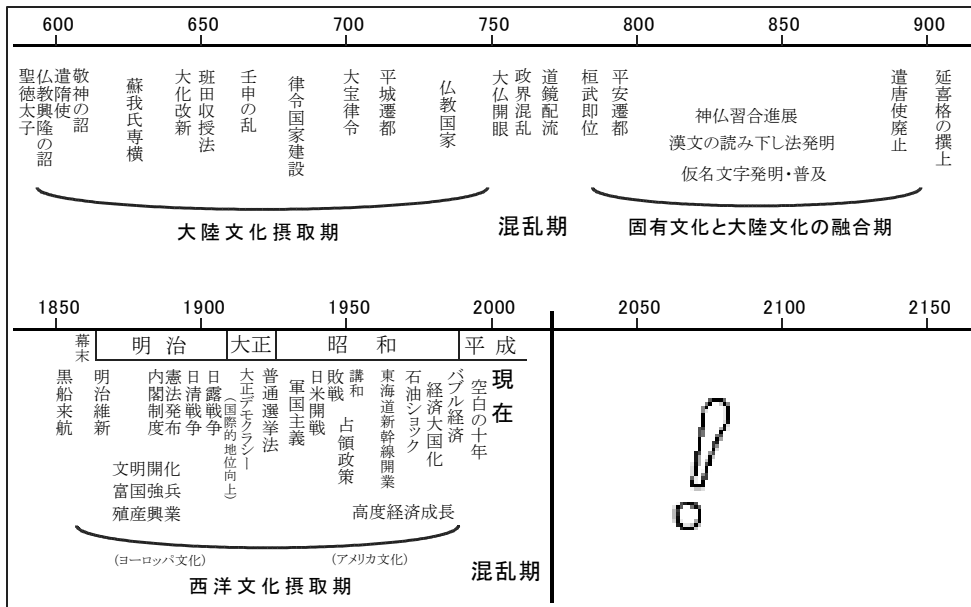


図14. 今日と奈良時代の類似性

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

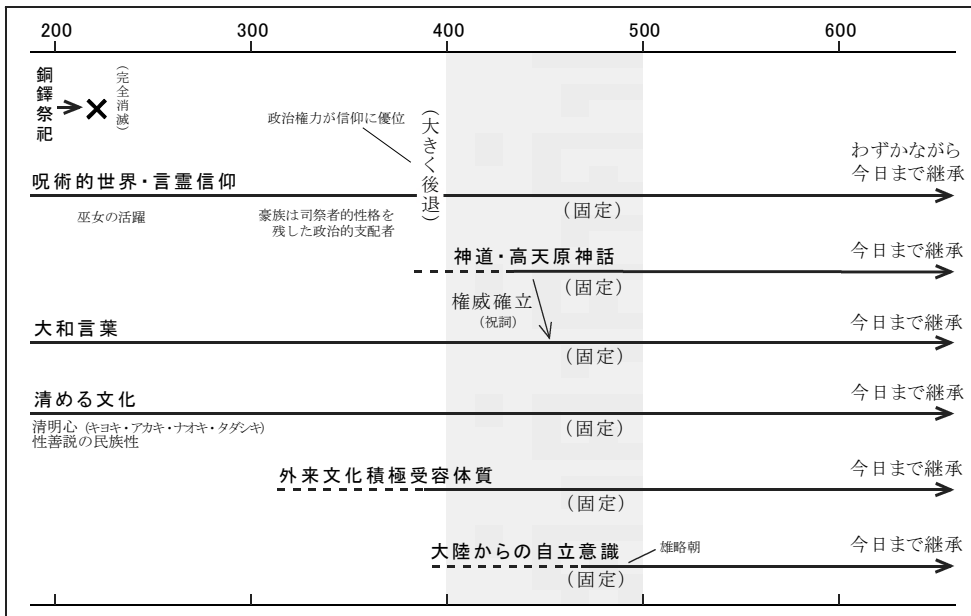


図15. 日本史において5世紀を通して維持された要素

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.

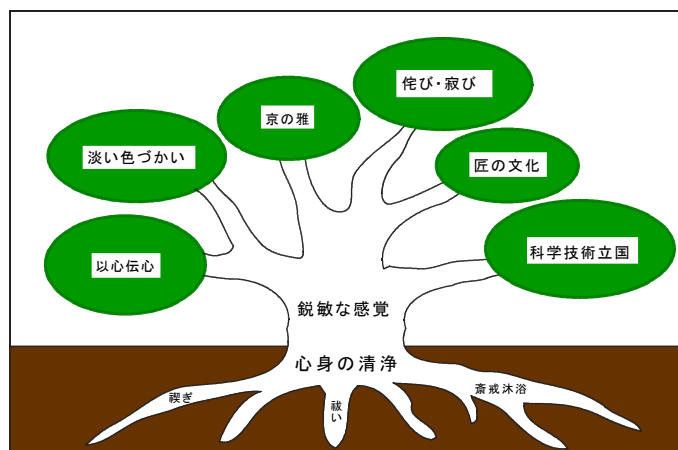


図16. 「清める文化」と日本文化

Copyright(C) 2002, by Taro URASAKI. All Rights Reserved.